

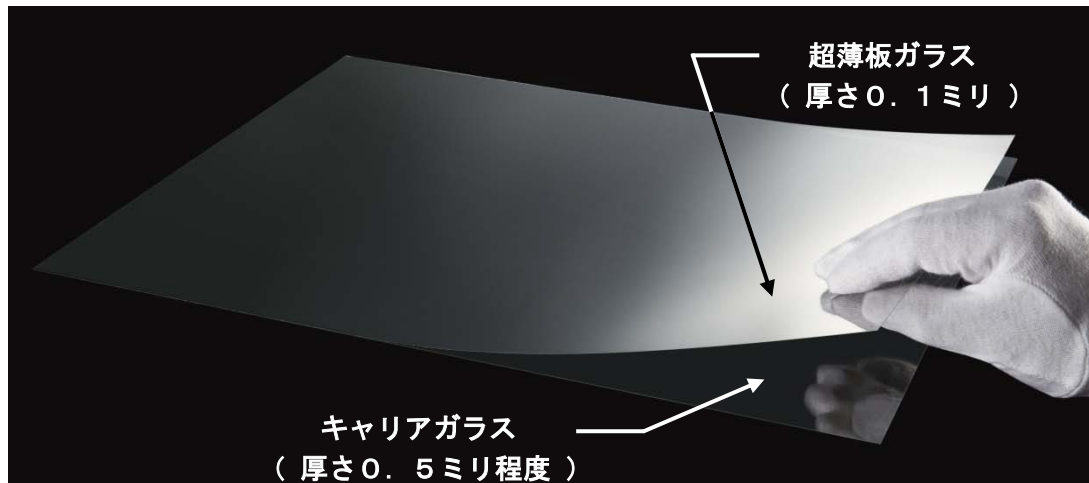
2012年5月30日

## 次世代ディスプレイなどの実現に向け、超薄板ガラス積層技術の開発に成功 ～既存の製造設備のまま超薄板ガラスを使用可能に～

**AGC** 旭硝子株式会社

AGC（旭硝子株式会社、本社：東京、社長：石村和彦）は、超薄板ガラスをお客様の製造工程で搬送するためのキャリアガラスへ貼り合わせる積層技術の開発に成功しました。この技術により、お客様の設備を変更することなく超薄板ガラスを取り扱うことが可能となるため、超薄板ガラスの利用が期待される次世代ディスプレイなどの様々なアプリケーションの実用化に大きく近づきます。

### 超薄板ガラス積層基板の外観



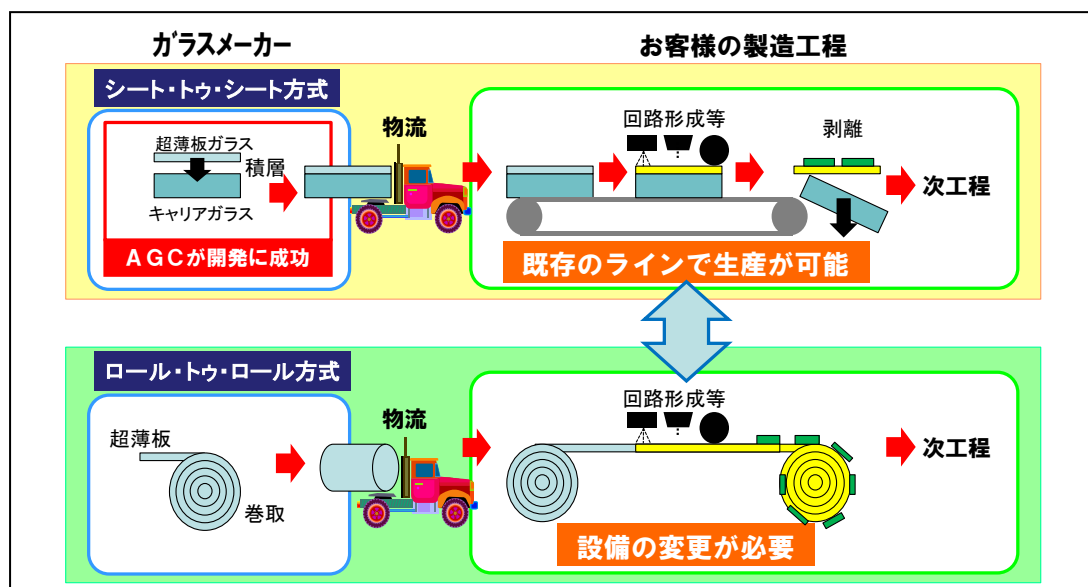
昨年AGCが開発に成功した厚さ0.1ミリの超薄板ガラスは、透明性、耐熱性、電気絶縁性などのガラスの優れた特長に加え、非常に薄く、フレキシブルであることを活かし、次世代のディスプレイや照明、タッチパネルなどへの応用が期待されています。

現在、その実用化に向け、ロールに巻き取った超薄板ガラスを帯状のまま連続的に製造工程で取り扱うロール・トゥ・ロール方式などの開発が進められていますが、既存設備の大幅な変更を伴うことが課題となっています。

AGCは、超薄板ガラスの実用化を加速するため、厚さ0.5ミリ程度のキャリアガラスに超薄板ガラスを貼り合わせる積層技術を開発しました。この技術で作られた積層基板は、通常のシート状のガラスと同様に1枚ずつ扱うことができるため（シート・トゥ・シート方式）、お客様の設備を変更することなく超薄板ガラスに回路形成などの処理が行えます。

また、キャリアガラスと超薄板ガラスは特別な吸着層で貼り合わされており、製造工程における加熱や化学処理に対する耐久性がある一方、工程で処理された後にキャリアガラスを容易に剥離することができます。さらに、キャリアガラス上の超薄板ガラスは、工程設備に直接触れないため、傷の発生を抑える効果も期待できます。

## 超薄板ガラスを利用したお客様の製造工程（イメージ）



AGCは、フロート法による高度なガラス製造技術を追求するとともに、新たなアプリケーションにガラスを活用するためのプロセス技術を確認し、お客様に最適なソリューションを提供していきます。

なお、この積層基板サンプルは、6月4日より、ボストンで開催される展示会“Society for Information Display (SID)”の当社ブースに展示します。

◎本件お問合せ先： **AGC** 旭硝子(株)広報・IR室長 上田 敏裕  
(担当：吉田 TEL:03-3218-5603、E-Mail:info-pr@agc.com)